

横浜市感染症発生動向調査報告（令和5年7月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は5類化以降、増加が続いています。基本的な感染対策なども含め、継続して注意が必要です。
- 梅毒が20歳代～50歳代を中心として多く発生している他、性器クラミジア感染症などの性感染症にも注意が必要です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっています。

◇ 全数把握の対象

＜7月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	23件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	4件	水痘(入院例に限る)	3件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	梅毒	22件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	風しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件		

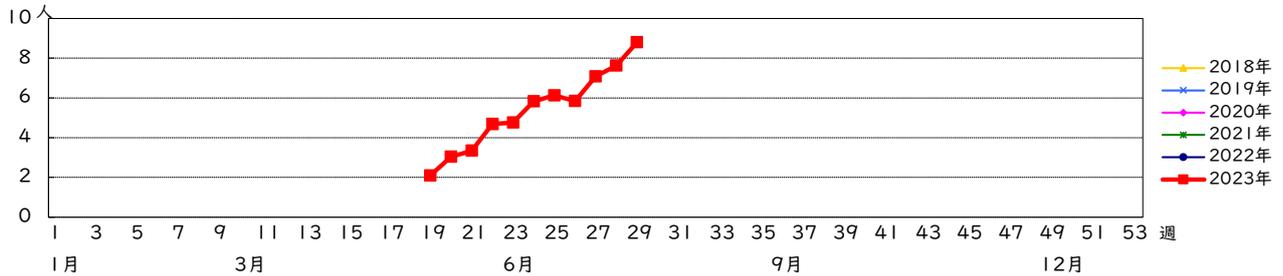
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳未満～90歳代で、血清群O157が13件、O26が4件、Og82が1件、O91が1件、O103が1件、O145が1件、O血清群不明が2件です。経口感染と推定される報告が8件、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が13件ありました。
- 2 **E型肝炎**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 3 **マラリア**:40歳代で、海外での蚊からの感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症(肺炎型)**:60歳代～80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 5 **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 6 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:30歳代～80歳代で、血清群はG群が2件、A群が1件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- 7 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:40歳代で、性的接触(同性間)と推定されています。
- 8 **ジアルジア症**:50歳代で、感染経路等不明です。
- 9 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、3回1件、無1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件ありました。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**:80歳代(ワクチン接種歴不明)で、感染経路等不明です。
- 11 **水痘(入院例に限る)**:30歳代～80歳代(ワクチン接種歴無1件、不明2件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件ありました。
- 12 **梅毒**:20歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期12件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件、無症状病原体保有者3件です。性的接触による感染と推定される報告が18件(異性間15件、詳細不明3件)、感染経路等不明の報告が4件ありました。
- 13 **風しん**:30歳代(ワクチン接種歴1回)で、感染経路等不明です。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第26週	6月26日～7月2日
第27週	7月3日～7月9日
第28週	7月10日～7月16日
第29週	7月17日～7月23日

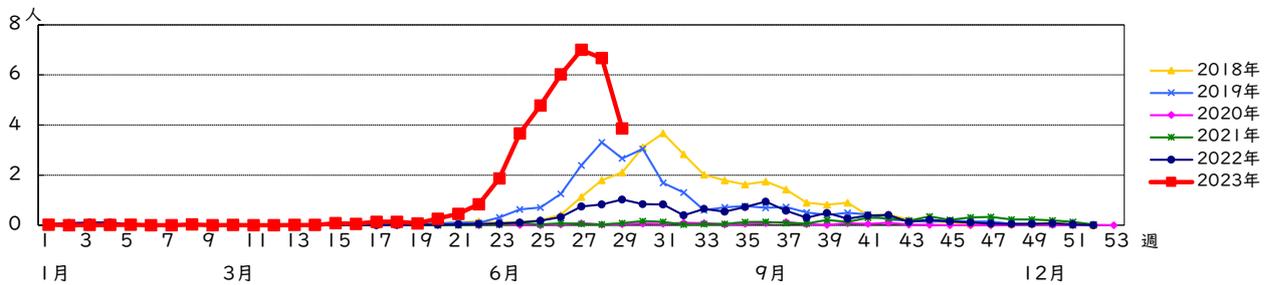
1 新型コロナウイルス感染症:

2023年5月8日(第19週)以降は定点報告となりました。第19週は2.10で、以降増加が続き、第26週5.84、第27週7.09、第28週7.63、第29週8.80と推移しています。



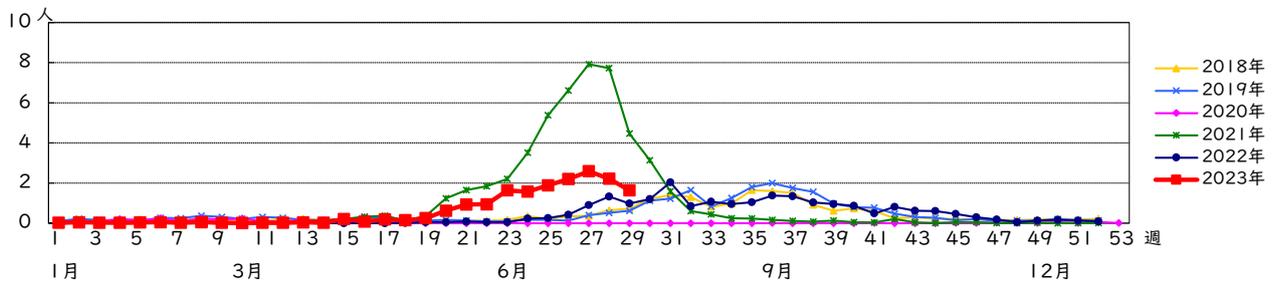
2 ヘルパンギーナ:

2023年第20週(0.27)以降増加しはじめ、第26週6.02で流行警報発令基準6.00を上回りました。第27週7.00でピークを迎え、第28週6.67、第29週3.87と推移しています。



3 RSウイルス感染症:

2023年第19週(0.26)以降増加しはじめ、第26週2.20、第27週2.59、第28週2.22、第29週1.64と推移しています。



4 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性:6件	淋菌感染症	男性:14件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	1件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

7月期(2023年第26週～第29週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点3件、基幹定点1件、定点外医療機関からは1件でした。

8月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離3株と遺伝子34件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果 (2023年第26週～第29週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	主な臨床症状				
	上 気 道 炎	下 気 道 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	イン フル エン ザ	そ の 他
RSウイルス	- 1	- 7			
コクサッキーウイルス A2型	- 1		- 1		
コクサッキーウイルス A4型	- 1	- 1	- 3		
パラインフルエンザウイルス 3型	- 1				- 1
パラインフルエンザウイルス 4型	- 1	- 2			
ライノウイルス	- 3	- 1			
パレコウイルス 1型	- 1				
パレコウイルス 3型					- 2
パレコウイルス 型未同定		- 1			
ボガウイルス	- 3				
ヒトメタニューモウイルス	- 2	- 1			
インフルエンザウイルス AH3型				2 -	
アデノウイルス 2型	1 -				
合 計	1 14	- 13	- 4	2 -	- 3

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

7月期(2023年第26週～第29週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌目細菌3件、嫌気性グラム陰性桿菌1件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌(NTM)4件、薬剤耐性アシネトバクター1件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌17件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌1件、侵襲性インフルエンザ菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌3件、肺炎球菌疑い1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点からマラリア2件、非定点から細菌遺伝子検索が1件、保健所からレジオネラ属菌2件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は咽頭炎2件、胃腸炎・腸炎1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2023年第26週～第29週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	嫌気性グラム陰性桿菌	1	検査中(1)	
医療機関	非結核性抗酸菌(NTM)	4	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (2)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (2)	
	薬剤耐性アシネトバクター	1	検査中(1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	17	O157:H7 VT1 VT2 (8)、O157:H7 VT2 (4)、O26:H- VT1 (2)、O103:H2 VT1 (1)、O145:H-(Hg28) VT2 (1)、Og82:Hg8 VT1 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
	侵襲性インフルエンザ菌	4	<i>Haemophilus influenzae</i> (4)	
	劇症型溶血性レンサ球菌	3	G群溶血性レンサ球菌(2)、A群溶血性レンサ球菌(1)	
	肺炎球菌疑い	1	<i>Streptococcus mitis</i> group (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
医療機関	血液(6/28)	マラリア	1	LAMP/Nested PCR <i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 海外渡航歴あり
	血液(6/29)	マラリア	1	LAMP/Nested PCR <i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 海外渡航歴あり
非定点	心臓弁(M弁)	細菌遺伝子検索	1	16S rRNA遺伝子 PCR 陰性
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	2	培養陰性(1)、 <i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	2	A群溶血性レンサ球菌 TB3264 陽性(1)、培養陰性(1)
	直腸ぬぐい	胃腸炎・腸炎	1	消化器系病原菌 陰性(1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】